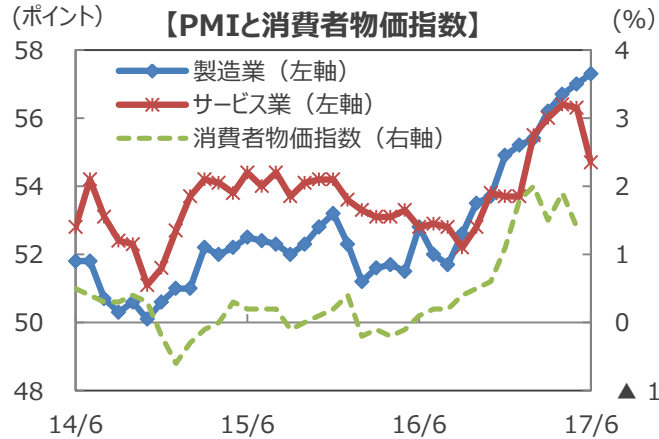


今日のトピック 最近のユーロ圏経済・市場動向（2017年6月）

株価やユーロが堅調なユーロ圏経済は回復が続く見込み

**ポイント1 緩やかな景気拡大が続く
景況感も中立を上回る良好な水準**

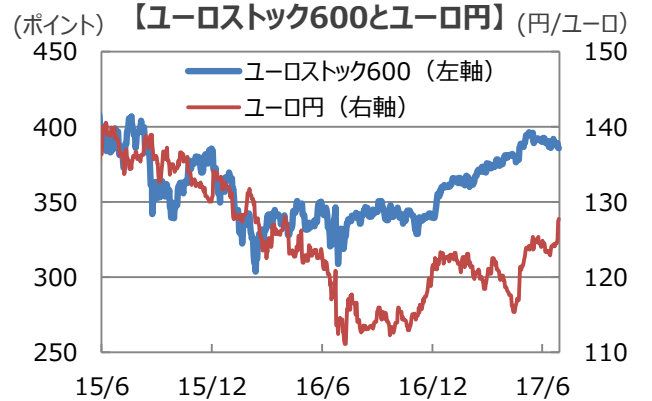
- ユーロ圏の2017年1-3月期の実質GDP成長率（確報値）は前期比年率+2.3%となりました。緩和的な金融政策とやや拡張的な財政政策により、域内の需要は旺盛です。一方、輸出は英国景気の減速の影響もあり力強さに欠けるものの、米国向けや中国などアジア向けが回復し、全体として増加傾向が見込まれます。
- 6月のユーロ圏の製造業PMI（速報値）は57.3、サービス業PMIは54.7といずれも中立水準を上回る良好な水準を維持しています。



(注) データは2014年6月～2017年6月。
消費者物価指数は前年同月比、2017年5月まで。
(出所) Bloomberg L.P. で取得したIHS Markitデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 量的緩和政策は縮小方向へ
景気回復とともに物価は底入れ**

- ユーロ圏の5月の消費者物価指数は前年同月比+1.4%となりました。エネルギーや食品価格の下落傾向から、前月よりも物価上昇ペースが鈍化しました。
- 欧州中央銀行（ECB）の緩和的な金融政策により、ユーロ圏景気は緩やかな回復基調にあります。一方、物価も底入れしつつあることから、9月の理事会で量的金融緩和策の縮小が発表されると考えられます。政策金利については、18年末までは据え置かれると予想されます。



(注) データは2015年6月1日～2017年6月28日。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気回復を背景に、ユーロや株式は堅調な展開が見込まれる

- 景気回復および景況感の改善を背景としてユーロ圏企業の業績は底入れから回復へと向かっています。また、今年に入り主要各国で総選挙、大統領選挙などの重要な政治イベントが続きましたが、これらを波乱なくこなしたことで、足元では金融市場に安心感が広がっています。こうしたことから、米国と比べて相対的に割安感がある欧州の株式市場は、引き続き堅調に推移すると見られます。通貨ユーロはECBによる金融緩和の縮小観測が下支え要因となり、底堅い展開が見込まれます。

ここもチェック! 2017年6月29日 欧州の『選挙イヤー』、上半期をプレイバック!
2017年6月 9日 ECBの金融政策は緩和を維持（2017年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。